

洪福水楊帳

新西卷

三册合
2795



卷之上



洪福水揚帳自序

錦耕堂 山口屋 十郎

夫儉約と云ふると吝嗇と云ふるとあるの差別あり。儉約と云ふは道小令のそと老成者たるべき事にも財を惜まじて。費あると云ふは身てせぬ事あると。吝嗇と云ふは財を惜まじて射をせぬ。貯るんは財の積む。欲は盡く盡くするなり。爰に傳は又平とて生得律氣にして。應やぬ分限は預りて。唯一生の中人のものを借取せりと。朝夕に買物も現金未未の内。其目的の着屋いふと。妻と持て。ひより身はくし。心も死伏見の行里に。負銭所樂し。男あり。其隣に。赤鬼の傳六とて。一身欲く。悪く。人を極く。途怒う。事の名人。道より。事。非。眼。物。今手予上坂の折。伏見。高。物。

13
2795

抄
へ13
2795

表
1961
112
ヲ改メ

此の巻の目録

洪水の時又平の仁智を以て人を財け大金を
 得たり。傳六則彼小僧にて一鉢を煮て
 善惡の遠近を辨じ兒童に授くと
 于時文化十の一角蓋春ノ
 十返舎一九誌



又平
 佛
 又平

此國小人の
 頭を鬼乃
 かりてたま
 なるるもの
 長き髪を
 以てて
 見るやんし
 且世に
 ありて
 ありて



凶徒
 赤鬼
 傳六

代舌
 予妻奉れ月の物つたこり上
 年々のもの
 通俗巫山夢 全五冊
 靈宝連埋雙袖 全五冊
 各出来 十返舎識



中

一九

香箱板

卜板





せんどうのもつせまる
 ちりごのしりや
 せんちちりあがなる

ありふたふんと
 こそらりあく
 こんおかせ
 ぶんくつとせん
 ひまふつとせん
 しんてい

しりや



せんちちりあがなる

九



目かき
その夜とわねの
ゆめどゆめ
二三人くさむ
あんども又年か
とてこるうねを
そのあけいっせに
せんと夜ふけて
いのみちを
この川あいのう
まじくまじり
うらりうらり
うらりうらり
このあやとりあけ
さあきてか
うらり

うらり
うらり
うらり
うらり
うらり

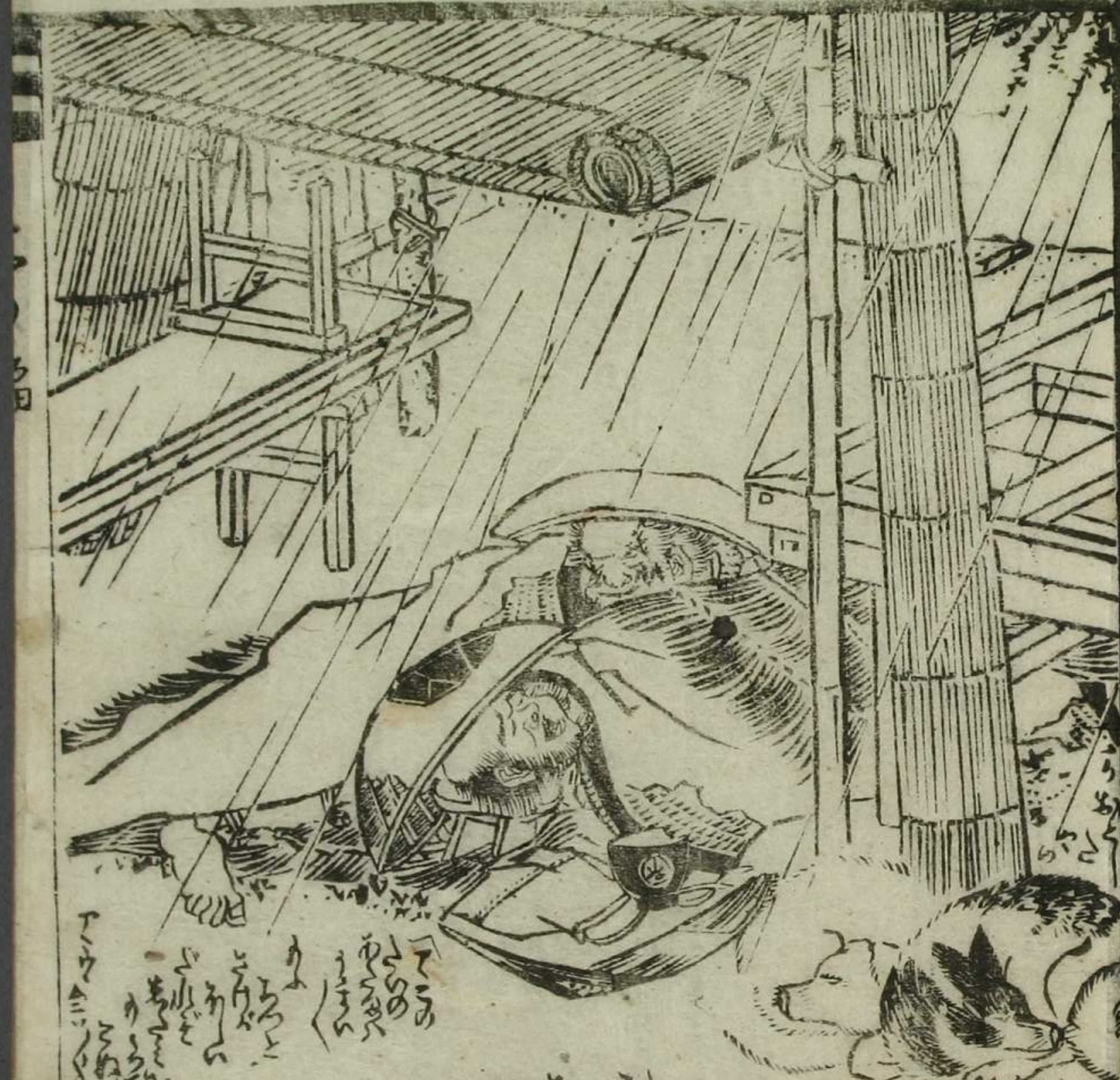


下 西ノ春新板

木場揚子



阿



又平がめづる
 子ののりや
 ありたりんか
 つくはく見ゆ人
 石ころをいれ
 川めあつて
 こころいれ
 りちまりし
 せんたつて
 つけある
 又平がめ
 りてめ
 又平がめ
 りてめ



又平がめづる
 子ののりや
 ありたりんか
 つくはく見ゆ人
 石ころをいれ
 川めあつて
 こころいれ
 りちまりし
 せんたつて
 つけある
 又平がめ
 りてめ
 又平がめ
 りてめ

